

笑顔があふれる楽しい町



第9回子どもたちが活躍する町 二十歳沖り2014

報告書

はじめに

私が、はじめて「子どもの町」について知ったのは、2005年の夏でした。その年の11月に、数人の先生と学生で立ち上げた「子どもが作る町ミニたまゆり」は、教員も学生も、手探りの状態で始めたイベントでした。スタッフの経験不足や様々な不備などで、今思うと至らぬことが多い不完全なイベントだったと思います。それでも、来場してくれた子どもたちは楽しそうにイベントに参加してくれました。その子どもたちの笑顔や、私たちが考えるミニたまゆりの趣旨を子どもたちが理解してくれた時の感動を忘れられず、今までこのイベントを続けてこれたのだと思います。

初年度は1日の参加者200人強という小さなイベントでしたが、現在では二日で3000人以上の参加者が集まります。参加者からは、今年も楽しみにしていましたという声を掛けてもらう事が多く、地域に定着した大学の恒例行事に成長したと感じています。今年度は、雪のため半日で中止になるという不本意の結果となりましたが、参加していただいた保護者の方から、大雪の中イベントの準備に携わったスタッフへの感謝の言葉をたくさんいただきました。

大学が、ミニたまゆりを手掛けている目的は、大きく分けて2つあります。1つ目は、大学周辺に住む子どもたちへの地域貢献です。参加する子どもたちの声に耳を傾けると、「今年もミニたまゆりを楽しみにしていた」「年に1回ではなく、毎月開催して欲しい」「第1回目から6年連続で来ています」などミニたまゆりに対するポジティブな感想が数多く聞かれます。また、保護者の感想として、「子どもの頑張る姿に驚きました」「仕事やお金の大切さを理解してくれたようです」といった子どもの成長を感じる感想がありミニたまゆりの活動が、地域の人々に良いイメージで受け入れられている事が判ります。

2つ目の目的は参加する学生への教育活動です。実行委員の学生を中心として運営されるミニたまゆりの活動は、学生の目的意識・自分で考え行動する力・コミュニケーション能力を養う上で非常に優れた教材になっていると考えています。事実、実行委員として参加してくれた学生の成長は目覚ましく、昨年度とは見違えるほどの能力の向上が見られます。

上記の目的を達成するために、実行委員・大学スタッフ・地域の協力者など、多くの方々の協力を得てきました。今回のミニたまゆりが成功に終わったのも、これら協力者の1年間の活動の成果です。最後になりましたが、ご尽力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

田園調布学園大学
ミニたまゆり実行委員会 教職員代表
番匠 一雅

ミニたまゆりの沿革

第1回 2005年11月

学園祭と同時開催

酒井ゼミの学生と数人の教員で運営

2日間で500人の参加

第2回 2006年8月

4日間で2000人の来場者

消防署・警察署・地域通貨たま・市民

プールなどの協力を得る

第3回 2008年3月

3日間で3000人の来場者

川崎市阿部市長が視察に訪れる以後毎年

ミニたまゆりに参加している

第4回 2009年2月

2日間で2000人の来場者

地域福祉学科1年の必修行事となる

川崎FMによるラジオPRを開始

第5回 2010年2月

地域交流センターが設立

同センターの担当行事および人間福祉

学部1年の必修授業となる

前日に大子ども会議を開催

第6回 2011年2月

市議会が開催され市民の声から町の公

約が決まる

模擬裁判が開催される

テレビ神奈川で特集が放映される

第7回 2012年2月

2日間で3000人の来場者

黒岩神奈川県知事が視察に訪れる

プロ声優・アナウンサーの指導による

声優・テレビ局の仕事を追加

大人ユリーの販売

第8回 2013年2月

ANA 航空教室・遊びの森など協賛企業

のブースを開設

エコ・バザーを開催

Twitterの活用を開始

第9回 2014年2月

病院の仕事体験（新百合丘総合病院）

ビューティーサロン、自衛隊

事前予約制の導入

職業案内所の電子可

大雪のため初日の13時で中止



ミニたまゆりとは？

「ミニたまゆり」はドイツのミニ・ミュンヘン子どものまちを参考に、川崎市麻生区にある田園調布学園大学が地域の子どものために開催するイベントです。ミニたまゆりに参加した子どもたちは、自分たちの力で町を運営します。町には、市役所・銀行などの公共施設、様々な製品を製作する工場や食事を提供するお店、ボーリング・射的などのゲームを楽しむための娯楽施設など様々なお店（仕事）が用意されており、子どもたちは自分の好きなお店で仕事に従事します。仕事を体験した子どもたちにはお給料が支払われ、税金を徴収し残ったお金で、買い物・食事・ゲームに参加するといったサービスを受けることができます。子どもたちは、このような町作り体験を通して労働の喜び、お金の大切さなど、社会のしくみを楽しみながら学びます。「たまゆり」の名称は、本学の学生がよく利用する新百合ヶ丘駅とたまプラーザ駅の名前から名付けられた。

ミニたまゆりの成り立ち

福祉の専門大学として開学した田園調布学園大学の酒井教授がゼミナール活動の延長として2005年11月に学園祭のイベントとして開催したのが、ミニたまゆりの始まりでした。2005年2月に酒井先生はドイツミュンヘン市で開催されているミニ・ミュンヘンの活動を知り、深く感銘を受け、この活動を大学で展開する事でプロジェクトマネジメントの学習教材として学生への教育効果が期待できると考えるようになりました。その考えを実践するために何人かの教員の協力者を得て小規模ながらイベントを実現させることに成功しました。

ミニたまゆりは、田園調布学園大学と
川崎市教育委員会との連携事業です。

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

第9回 ミニたまゆりの概要	
開催期間	平成26年2月8日（土）・9日（日）
開催時間	10:00～16:00
場 所	田園調布学園大学 3・4・5号館
対象年齢	5～15歳（小学校未就学児は付添いが必要）
参加費用	300円（二日間有効）
来場児童数	274人
参加予約者	1,460人

子ども会議の概要	
第1回 10月19日	仲間作りゲーム・キャッチフレーズの作成
第2回 11月30日	市長選挙・町のルールを考える
第3回 12月21日	ユリーのデザインを考える・看板作成・在庫作成
第4回 1月25日	ミニミニたまゆり（リハーサル）

大雪のため、ミニたまゆりの途中打ち切り

第9回ミニ玉百合は、大雪のため、初日（2月8日、土曜）は13時に打ち切り。2日目（2月9日、日曜）は中止となりました。

大雪による経緯と対応

2月7日前日 13時10分～ 当日の午前6時に開催の有無について判断することとした。

2月8日当日 5時50分～ 天候及び交通状況を確認の上、開催を決定。
但し、状況に応じて打ち切りすることとした。

2月8日当日 11時45分～ 11時に大雪警報が発令された事を受け、学長判断により13時に打ち切り、学生は14時には帰宅、2日目は中止決定。

来賓

2月8日 10:00 福田川崎市長、神奈川県政策研究・大学連携センター 林所長、川崎市教育委員会 峪委員長、多田麻生区長がミニたまゆりの視察に来校。テープカット、子ども市長との対談、町の見学を行った。

参加団体

川崎市教育委員会（広報）

DCU 地域パソコン倶楽部（受付作業ボランティア）

川崎市橋りサイクルセンター（紙すき）

神奈川県立麻生総合高等学校（声優・新聞社・テレビ局ボランティア）

セレサ川崎農業協同組合（調理用野菜の提供）

地域通貨たま運営委員会（地域通貨たまの提供）

社会福祉法人ウィズ町田 スワンペーカーリー町田店（パン）

アメーzingワールド（制作）

新百合ヶ丘総合病院（病院の仕事体験）

なでしこ同窓会（エコバザー）

NPO法人コチカラニッポン（シューアイス）

NPO法人ソシアキュアアンドサポート（ビューティーサロン）

自衛隊 神奈川県地方協力本部（被災地支援関連展示）

ミニたまゆりのルール

<p>①仕事をさがす</p> <p>職業案内所で仕事と働く時間を決めます。市民カードに時間を書いてもらい、お仕事カードを持ってお店に行きます。</p> 	<p>②仕事を始める</p> <p>仕事を始める前に、市民カードを店長に渡すのを忘れないでね。遅刻をすると給料が減ります。</p> 	<p>③仕事をやめる</p> <p>終わる時間になったら市民カードにハンコをもらいましょう。</p> 
<p>④お仕事カードをかえす</p> <p>仕事が終わったら10分以内にお仕事カード返却所にお仕事カードを返してください。カードを返さないと給料がもらえません。</p> 	<p>⑤給料をもらう</p> <p>仕事が終わったら銀行で働いた分のユリーを受け取ります。30分働くと4ユリー支払われます。</p> 	<p>⑥税金を納める</p> <p>ユリーをもらったから、税務署に行つて税金を納めましょう。税率は50%です。</p> 
<p>④ユリーを使う</p> <p>もらったユリーで食事をしたりゲームを楽しみましょう。</p> 	<p>ミニたまゆりの仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.もらえるお給料は30分4ユリー 2.給料の半分を税金として納める 3.1つの仕事は120分まで働けます 4.困った事は大人スタッフに相談する <p>※集めた税金で公共で働いた人への給料が支払われます</p>	<p>子どもの町でやってはいけない事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.買ったものを他の人に売らない 2.ユリーの貸し借りはしない 3.ゴミのポイ捨てはしない 4.けんかをしない 5.階段や廊下を走らない 6.食べながら歩かない

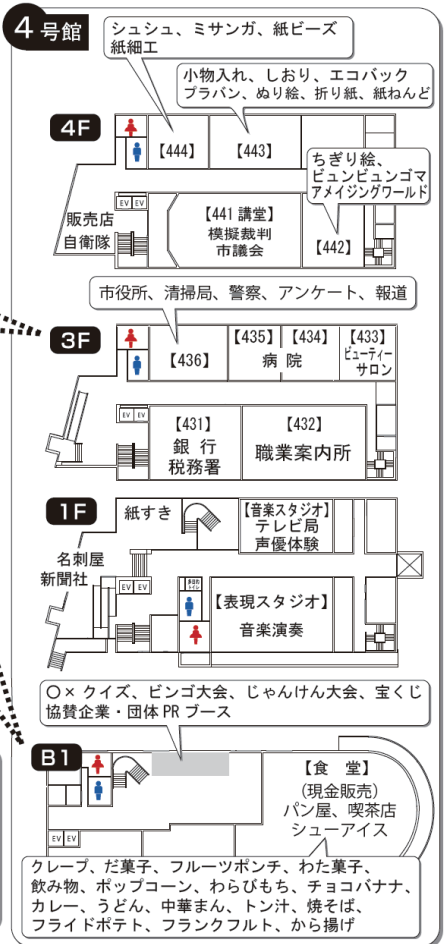
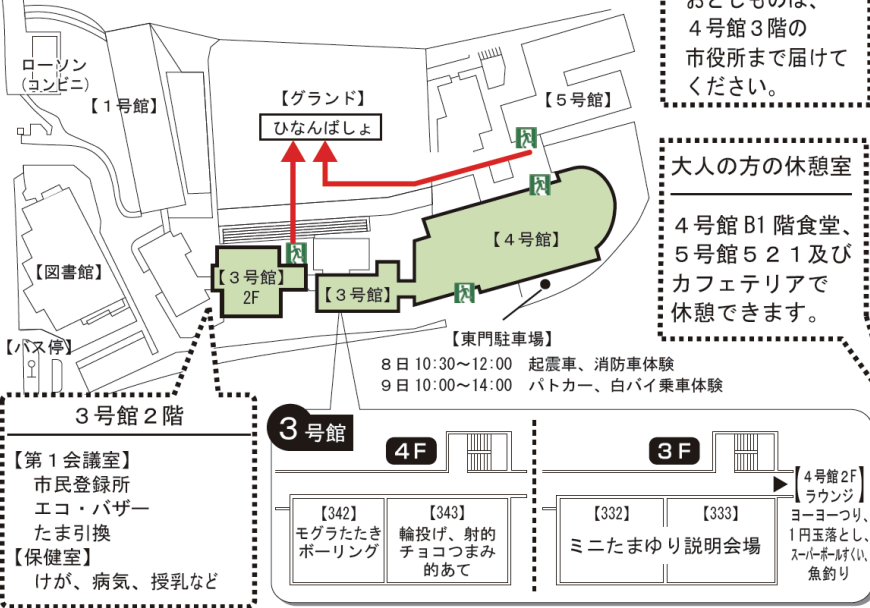
子どもが活躍する町 ミニたまゆり

～笑顔あふれる楽しい町～

★お知らせ★

使い切れなかったユリーは3号館2階の市民登録所で下記のものとの交換できます。交換は両日とも15時から。数に限りがあります。

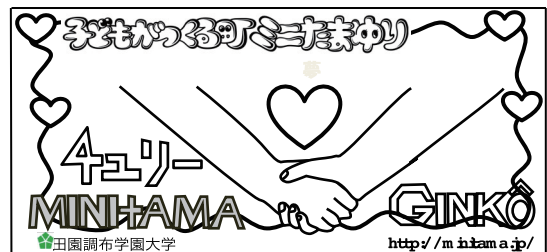
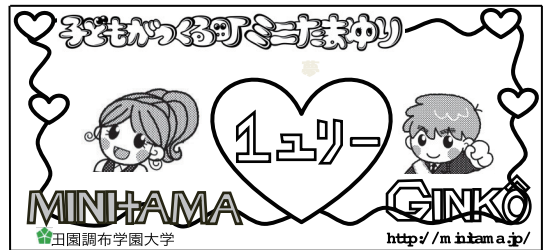
地域通貨タマ (2ユリー → 200タマまで)
エコ・バザー (子ども用品 1ユリー → 1品)



ミニたまゆりの通貨「ユリー」

ミニたまゆりの町の中で買い物をするには、「ユリー」という単位の地域通貨を利用します。1時間お仕事をすると、銀行で8ユリーの給料が支払われます。銀行の隣にある税務署で税金として4ユリーを納めた後、残った4ユリーを買い物や遊びに使います。

今年のユリーのデザインは、子ども会議の参加者から募集したイラストを元に作成しています。子ども達の応募作品から、次の3つの作品が選ばれ、これらの作品を元に大学生の実行委員がユリーのデザインを作成しました。



ミニたまゆりの税率について

ミニたまゆりの税率は、なんと50%！参加者のアンケートを見ると、多くの方々から税金が高すぎるとの意見をいただいています。しかし、第1回目から1時間働いて手元に残るお金が4ユリーという金額は一切変わっていません。第1回のミニたまゆりでは、1時間6ユリーと公表していましたが、実際に銀行で支払われる金額は2ユリーの税金を差し引いた4ユリーでした。第2回目では税金を納めるリアルな体験をさせたいという事で、1時間6ユリーを支払い、税務署で33%の税金（2ユリー）を納めるようにしましたが、小学校低学年には33%の税金を計算するのが難しく、税務署でのトラブルが発生しました。これらのトラブルを解消するために、1時間8ユリーの給与を支払い、その半分を税務署に収めるという今の方法が定着したのです。

大人ユリーについて

参加児童の保護者の方々から、「お客さんが少なくてもいいから。お客さんになってあげたい」「子どもから食事を購入して食べてみたい」といった意見寄せられるようになり、保護者の参加料として500円を支払っていたが、大人専用のユリーを5ユリー分お渡しする制度を導入しました。大人ユリーは、子どもは使えない他、ビンゴ大会やエコバザーに利用する事はできません。



各グループの紹介

グループ名	内 容	店舗名
<p>公共</p> 	<p>町の住民になるための市民登録や職業案内・銀行などの市民の窓口になる施設が用意されています。その他にも、市役所・警察・清掃局など市民の生活を支え、暮らしやすい町を作るための仕事がたくさん用意されています。公共の仕事で支払われる給料は、税務署で集めた税金から支払われます。</p>	<p>市民登録・職業案内・銀行・税務署・テレビ局・新聞社・市役所・清掃局・警察・声優体験・アナウンサー体験・アンケート・報道</p>
<p>製作</p> 	<p>子ども達の力でプラバンやミサンガなどの小物を製作します。製作物は隣に併設された販売所で販売されます。自分で作成した小物を持って帰る事は出来ませんが、販売所で自分の作品をユリーで購入することができます。</p>	<p>ちぎり絵・ビュンビュンゴマ・ポップアップカード・小物入れ・しおり・エコバック・ぬり絵・折り紙・紙細工・紙ねんど・プラバン・紙ビーズ・シュシュ・ミサンガ・販売店・名刺・紙漉き</p>
<p>遊び</p> 	<p>自分で稼いだユリーを使って、色々な遊びが体験できる店舗がそろっています。ゲームなどで遊んだあとは、その得点に応じて駄菓子などの景品がもらえます。射的の鉄砲や輪投げの輪・魚釣りの魚のイラストなど、店舗に必要な部材は、子どもたちが自分の力で用意します。</p>	<p>ヨーヨー釣り・1円玉落とし・スパーボールすくい・魚釣り・ボーリング・モグラたたき・輪投げ・射的・チョコつまみ・的あて</p>
<p>食事・デザート</p> 	<p>子ども達が用意した食事やデザートを販売する店舗が多数用意されています。衛生面を考え、多くの店舗では、学生食堂で調理済みの食材を子どもが盛り付けしてお客さんに提供しています。また、保護者の方が楽しめるお店としてパン屋を用意し、菓子パンなどを現金で販売しました。</p>	<p>クレープ・駄菓子・フルーツポンチ・綿菓子・飲み物・ポップコーン・わらびもち・チョコバナナ・カレー・うどん・中華まん・から揚げ・トン汁・フライドポテト・フランクフルト・焼そば・シューアイス・喫茶店・パン屋</p>
<p>イベント</p> 	<p>食堂に設置されたステージで定期的に行われるゲームや発表会などのイベントです。今年度の新しいイベントとして病院・ビューティーサロン・自衛隊の展示などが開催されました。また、余ったユリーを有効的に消費するための仕組みとして、エコバザーを開催しました数多くの子供用お品が寄付され、集まった商品はユリーで販売されました。</p>	<p>音楽演奏・模擬裁判・市議会・〇×クイズ・ビンゴ大会・じゃんけん大会・宝くじ・自衛隊・起震車・消防車・白バイ・パトカー・病院・エコバザー・ビューティーサロン</p>

公共グループの報告

グループ長の感想

公共グループは、銀行や職業案内などミニたまゆり参加者は、必ず通る重要な場所であり、人が多く来るので、私たち学生スタッフがしっかりと連携をとり混乱を招かないよう心がけました。お金(ユリー)を取り扱う職業が多く、不正が行われないよう子どもたちに指導しました。指導している学生は子どもたち同様、仕事の重要性に改めて気づいた様子でした。

清掃局や警察署の仕事を担当した子どもたちは、校内を巡回しマナーの大切さを知る事ができたようでした。学生スタッフと一緒に行動して、とても楽しそうに仕事をこなしている様子が印象に残りました。

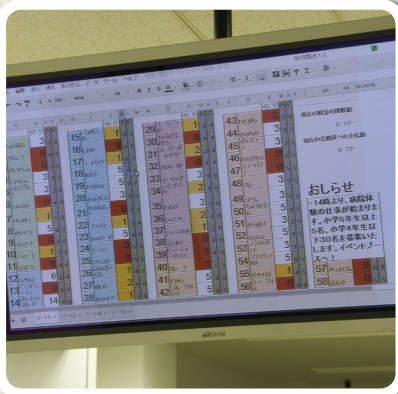


公共グループのお仕事一覧

市民登録	登録料金(300円)を集める	テレビ局	取材したビデオを編集し放映する
職業案内	仕事を紹介する	新聞社	取材した記事や写真を編集し新聞を発行する
アンケート	子どもたちからアンケートを集める	声優体験	プロの声優の指導のもと、アニメに音声を吹き込む
銀行	子どもに給与(ユリー)を支払う	清掃局	町をきれいにする
税務署	給与の50%を税金として支払う	報道	町の状況をTwitterで紹介する
市役所	様々な市民の要望に応える	警察署	落とし物や迷子の対応 町の安全を守る

市民登録

市民登録では、地域の高齢者の方々、ボランティアで受付作業を担当してくれています。市民登録ではエコバザーに出品するおもちゃなどの回収もしており、子どもたちは家で不要になった子ども用品を持参します。



声優体験

プロの声優の指導のもとアニメーションに音声を吹き込む仕事を体験します。何度もリハーサルを行って作成したアニメーションは、新聞社に設置された大型スクリーンに投影され、来場者に見てもらえます。



職業案内・税務署

今年から求人情報をパソコンで管理し、壁に投影された画面で確認するようにしました。昨年度の反省を元に、テーブルの配置を工夫し混雑が軽減されるようにしました。また、税務署で集めた税額をリアルタイムで掲示する仕組みを用意しました。



制作グループの報告

グループ長の感想

制作グループでは、販売するための商品を作ります。初めに大学生が子ども達に作り方を教えますが、装飾・塗装などの作業は子どもたちが自由に行います。個性的な作品が多く中には大学生が驚くようなものもあります。今年度は新たに、紙粘土・紙細工を使用しました。紙粘土は公表で子どもたちも楽しそうにいろいろな商品を作っていました。今回は大雪というトラブルで中断を余儀なくされてしまいましたが、反省点を洗い出し次回のミニたまゆりがより良きものになるよう努力したいです。



制作グループのお仕事一覧

シュシュ	毛糸を使い髪どめを作る	プラバン	プラバンに絵を描いてオーブンで焼く
ミサンガ	紐を結んでミサンガを作る	紙ビーズ	広告などを切って丸める
小物入れ	牛乳パックに飾りつけをする	エコバック	紙を折ってバッグを作る
紙すき	材料が解けた水をすくってはがきを作る	しおり	好きな絵を描き、穴に紐を通す
紙粘土	紙粘土で好きな形を作り色を塗る	販売店	お店で作ったものを売る
紙細工	筒状にした紙を重ね合わせ箱などを作る	名刺	パソコンを使って名刺を作成する

販売店

制作グループで作成されたものは、商品として販売店で売られます。今回は中断となってしまい売れ残りを減らすために大幅な値下げをしました。特にシュシュは人気で親御さんも欲しいと言っていました。



あそびの森（制作）

協賛企業のアメイジングワールドのスタッフの方々に来ていただき、その指導のもと商品を作りました。事前の準備が大変だったのですが、子どもたちが作った作品の出来はすばらしく、参加した子どもたちは大喜びでした。



紙すき

川崎市のリサイクルセンターに機材とスタッフを貸し出し・派遣していただきました。全体的に子どもが少なかった今回のイベントの中でも比較的にぎやかな様子でした。



遊びグループの報告

グループ長の感想

遊びのグループで大変だったのは、景品のお菓子の調達です。ゲームの内容を簡単にすると、1度に何個も景品を持っていく子どもがいて用意していた景品がなくなってしまうので、何回も調達に行く事になりました。小学1年生から中学生まで色々な子どもたちが参加しているので、程よいゲームの難易度に調整するのが難しかったです。子どもたちは、しっかりと接客をしていて、お客さんと一緒に遊ぶような感覚でボーリングの倒れたピンを数えたり、魚釣りで釣れた景品をあげたりしていました。



遊びグループのお仕事一覧

ヨーヨー釣り	縁日でおなじみのゲーム	モグラたたき	穴から出てくる人形をハンマーで叩く
スーパーボールすくい	スーパーボールをポイですくう	輪投げ	ペットボトルの的に輪を投げ入れる
魚釣り	制限時間内に何匹の魚を釣り上げるか	射的	手作りの割り箸鉄砲で輪ゴムを飛ばす
ボーリング	ペットボトルのピンをボールで倒す	チョコつまみ	マーブルチョコを箸でつかんで皿に移す

ヨーヨーつり・1円玉おとし

昨年、非常に寒いと不評だった水を使う遊びですが、今年度は会場を移動して少しでも暖かい状態で遊んでもらえるよう工夫しました。



射的

割り箸で作った鉄砲で的を狙います。昨年は球が当たり倒れた的を元に戻すのが大変だったので、今年はテーブルに的を固定し、的に球が当たったかどうかは目視する事にしました。



ボーリング

ペットボトルのピンを並べ、ボールを転がして倒します。倒れた本数で景品の駄菓子の数が変わりますが、上級生には簡単なのでペットボトルに水を入れて、倒れにくくして調整しました。



食事グループの報告

グループ長の感想

ノロウイルス・インフルエンザが流行していたので、食堂に入るお客さん全員に対して手の消毒を行い子供用の小さめのマスク・手袋を配布するなど衛生面を第一に考え企画を進めました。また、去年の反省をふまえ、店舗に料金表や配置図などを作りお客さんに判りやすくする工夫をしました。

今年は雪の問題などで、外部のお店が開催時刻に不在・商品が届かないなど、多くのイレギュラーな問題が生じました。また、交通の都合上子供たちが集まらなく、店員さんとお客さんのバランスが崩れ、また多くの子がユリーを持っていなかったため、町として機能していませんでした。そのため全ての商品を半額にするなど、現場での判断で臨機応変に措置を行いました。



食事グループのお仕事一覧

中華まん	冷凍の中華まんを電子レンジで調理	飲み物	ジュースを紙コップに注ぎ販売する
ポップコーン	機械で作ったポップコーンを販売	フライドポテト	調理済みのポテトを容器に盛りつける
わらび餅	紙コップにわらび餅を入れ、蜜をかける	フランクフルト	ホットプレートで調理する
カレー	ご飯とカレーをお皿に盛りつける	焼きそば	調理済みの焼きそばをパックにつめる
綿菓子	専用の機械で綿菓子を作り販売	クレープ	市販のクレープ生地にフルーツをトッピング

パン屋

保護者が現金で食べ物を買う事が出来る店舗として福祉施設の作業所にお願ひし、菓子パンの販売を行いました。今年は、雪のため途中での中止となってしまうため、余った菓子パンは、学生や教員で買いとる事になりました。



綿菓子

子どもたちに大変人気がある仕事で、仕事をする人も・お客さんもたくさん訪れます。本物の綿飴機で緑日の屋台と同じように作ります。ざらめの分量や形を整えるなど、難しいところもありましたが、子どもたちは上手に作れるようになりました。



カレー

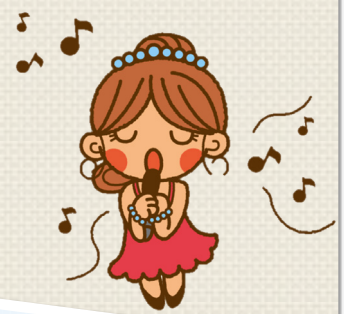
調理の難しさと衛生面から、学生食堂のスタッフが調理したカレーをコンロで暖め直しお客さんに提供しています。13時での中止が決まったあと、多くのお客が食堂に集まったため、大変混雑していました。



イベントグループの報告

グループ長の感想

今年のミニたまゆりでは子ども未来学科の学生をコアスタッフに入れるという新たな試みに挑戦しました。特にイベントには多くの子ども未来学科の学生が多く参加してくれました。彼女たちは、ボランティア意識が強く、何に関しても積極的に取り組んでくれました。しかし、今回のミニたまゆりでは13時に中止となってしまったため、内容が変更になったり、予定していたイベントが開催できないなど、イベントグループにとっては、とても難しい状況になってしまった。



じゃんけん大会	じゃんけんで勝ち残った子どもに菓子をプレゼント
〇×クイズ	クイズのお題をスタッフが発表し〇×に立って分かれてもらう
ビンゴ大会	ビンゴになった人に、豪華賞品のおやつをプレゼント
宝くじ	市役所で販売した宝くじの抽選会
ビューティーサロン	女の子にネイルアート・メイク・ハンドマッサージを行う
模擬裁判	子ども裁判員の意見を元に被告人の判決を決める
音楽演奏	簡単な打楽器を使って音楽演奏。プロの演奏家が指導します
病院	血圧測定・注射・エコー・心臓マッサージなど病院の仕事が体験できる

音楽演奏

プロミュージシャンが子どもたちに楽器演奏を指導します。簡単な打楽器を中心に、音楽に合わせて伴奏の練習をしますが、30分もすると子どもたちはとても上手に演奏できるようになります。プログラムの最後には、保護者の前で簡単な演奏会を開きました。



ビューティーサロン

NPO法人ソシアキュアアンドサポートの協賛で今年度新しくオープンした店舗です。NPOのスタッフの方々が子どもたちに、ネイルアート・フェイスマイク・ヘアーメイク・ハンドマッサージを指導してくれました。参加した女の子は、自分が可愛くなっていく事に大興奮。とても楽しそうでした。

川崎市市長の訪問

川崎市 福田市長のミニたまゆり訪問

田園調布学園大学の所在地である川崎市の福田市長がミニたまゆりへの視察に来ていただきました。同じ日程で、神奈川県政策研究・大学連携センター 林所長、川崎市教育委員会 峪委員長、麻生区多田区長をお招きする事になり、子ども市長との対談が実現しました。

開会式で子ども市長とともにテープカットに参加していただき、その後、学長室にて子ども市長との対談が行われました。対談では、子ども市長からの「市長に立候補した理由」や「川崎市をどんな町にしたか？」などの質問に答えていただいた他、子ども市長への町づくりのアドバイスがありました。

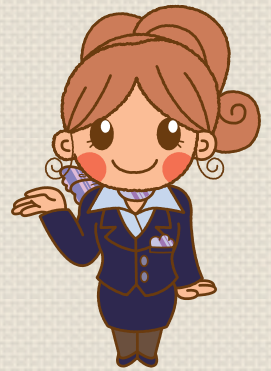
子ども市長の案内でミニたまゆりの様子を視察し福田市長は、新百合ヶ丘総合病院の仕事体験やビューティーサロン、食事ブースなどを見学され、この時の様子は後日ケーブルテレビのニュース番組で放送されました。

インタビューで福田市長は、「ものすごく楽しい。子どもだけでなく、大人も楽しめると思いますね。子どもにとっては良い経験です」と答えていました。また、「川崎には色々な技術を持った職人さんが沢山いる、そういう人たちと協力してミニたまゆりで子どもたちに仕事を教えられるようになればとても良いですね」とおっしゃっていました。



協賛企業・団体のブース

今年度で9回目となるミニたまゆり。年々協力していただく団体・企業が増えています。そこで、会場の一部を協賛団体に開放して、そこで子どもたちのために独自のイベントを開催していただきました。1つは、新百合が総合病院による「病院の仕事体験」。もう一つはNPO法人ソシアキュアアンドサポートによる「ビューティサロン」です。店舗ではありませんが、自衛隊 神奈川地方協力本部の方々が災害支援関連の展示や南極の氷の展示をしていただきました。その他にも、アメイジングワールド、NPO法人コチカラニッポンによるポップアップカード作成・シューアイスの販売などが開催されました。



病院の仕事体験



ビューティーサロン



南極の氷・石の展示 災害地支援関連の展示



子ども会議とは

「ミニたまゆり」の実現に向けて、毎年10月から月1回のペースで子どもたちを大学に招いて「子ども会議」を開催しています。子ども会議では、大学生や地域の大人スタッフが司会者となり、子どもたちと一緒に新しい町のルールやお店を考えたり、料理を作る練習やお店の接客の練習・イベントに必要なカンバンや飾り付けの作成といった準備を行います

毎回100人近くの子どもの参加し、子ども独自の斬新なアイデアを発想してくれます

子ども会議に参加して、料理や接客の方法を覚えた子どもたちは、「ミニたまゆり」本番では、子どもたちのリーダーとして活躍し、自分たちが考えたルールや学んだ事を、別の子どもたちに指導します

子ども会議に参加すると、1日につき4ユリーの報酬が支払われます。これは、子どもたちへの報酬という意味のほかに、オープン直後は町にユリーが流通していないので消費者が不在となり、店を開いてもお客が集まらないという問題を解決という効果があります。



子ども会議の効果



毎回の子ども会議の中には必ずグループワークの時間が設けられています子どもたちに、議題を投げかけグループにわかれ議論し、そこで集まった意見は最後の発表の時間に子どもたちに発表してもらいます。子どもだけの集まりでは活発な意見が得られませんが、ファシリテーター役の学生がうまく誘導する事によって、子ども独自の自由な発想が生まれてゆきます。

発表会で良い意見が発言された場合、積極的に町の仕組みに取り入れ、次回の子どもの会議で町の決定事項として大きく取り上げ、子どもたちに周知します。この経験を繰り返す事で、子ども会議に参加する児童は、自分たちの考えが町づくりに繋がる事を理解し、ミニたまゆりを自分たちの力で作り上げているという実感を得られるのです。

子ども会議で決定した事項としては、町のキャッチフレーズである「笑顔があふれる楽しい町」やユリーのデザイン、新しい店舗のアイデアなどがあります

また、子ども会議では、市長選挙を行い立候補者の中から8人の児童が子ども市長として選出されました。



当日の状況

第一回子ども会議のアイスブレイクは、動物当てゲームを行いました。背中に動物のバッチをつけて、周りの友達が出すヒントを元に動物を当てるゲームなのですが、初めは、緊張気味だった子ども達も、“アイスブレイク”という名前の通り、だんだんと打ち解けていく様子がありました。グループワークでは、ミニたまゆりのキャッチフレーズを考えました。数を多く出したグループには、賞品（お菓子）が渡され、子ども達もゲーム感覚で楽しい雰囲気となりました。最後に宿題のユリーのデザインの説明と子ども市長選挙についての説明を行いました。

子ども会議の感想

子ども会議が始まるまで緊張気味だった学生スタッフが、子どもたちとふれあう事により徐々に打ち解けていくのが印象的でした。子ども会議が終わる頃には、お互いをニックネームで呼び合い打ち解けた雰囲気になっているグループが沢山ありました。

アイスブレイクでは子どもたちから、たくさんのアイデアが出て、付箋をまとめる学生スタッフが大変そうでした。皆で考えたキャッチフレーズを子どもの代表者が元気よく発表している姿が印象的でした。

第1回 子ども会議

日時：2013年10月19日（土）

場所：341教室

目的：ミニたまゆりの説明
グループワーク



時間割

- ・アイスブレイクゲーム（仲間作り）
- ・ミニたまゆりの説明の上映・プリント配布
- ・ミニたまゆりのキャッチコピーを考えよう
- ・子ども市長選挙の説明
- ・ユリーデザインの説明

宿題の説明

- ・ユリーのデザインを考える
- ・市長になりたい人は、その理由を考える



各グループで考えたキャッチフレーズ

グループ名	キャッチフレーズ
きつね	笑顔いっぱいみんなのTOWN（タウン）
うま	笑顔いっぱいゆめいっぱいたのしいみんなの町
ねこ	笑顔あふれる子どもの町
しか	きれいで楽しい、あかるい町
うさぎ	笑顔あふれる楽しい町
いぬ	自分らしく作りあげる笑顔の町
ヒヨコ	だれもが楽しめ みんなの夢が集まるミニたまゆり
カンガルー	夢いっぱい笑顔いっぱいみんなの町
イルカ	わくわくステキなミニたまゆり
クジラ	思いやり心を1つにつくりあげる町

当日の状況

第2回子ども会議のアイスブレイクは「マシュマロチャレンジゲーム」をしました。これは、20本のバスタとセロハンテープで出来るだけ高いタワーを造るというゲームで、タワーの頂上にマシュマロをさせるぐらいの強度が必要になります。各グループの子どもたちは、工夫を凝らしてタワー作成に挑戦していました。優勝グループは73cmという大学生の記録より遥かに高い塔を完成させていました。

その後、ミ『子ども市長』の選挙と、今年のミニたまゆりキャッチフレーズの投票を行い、立候補者がそれぞれ演説しました。立候補者の子どもたちに一人ずつ「どうして市長に立候補したのか?」「市長になったら、子どもの町をどんな町にしたいか」というテーマで演説をしてもらいました。

休憩をはさみ、グループワークとして「町のルールをたくさん出そうゲーム」を行いました。その後、市長選挙の結果発表が行われ、今年は8人の子ども市長が選ばれました。子ども市長の最初の仕事として、町のキャッチフレーズの発表が行われ『笑顔あふれる楽しい町』に決定しました。今年のミニたまゆりでは、中央大学の学生がケーブルテレビで放映される番組の取材を行う事になっており、子どもレポーターとして番組に出演したい子どもを募集しました。

第2回 子ども会議

日時：2010年11月30日（土）
場所：341教室
目的：市長選挙・町のルールを考える

時間割

- ・アイスブレイクゲーム
- ・市長選挙
- ・キャッチフレーズ投票
- ・町のルールをたくさん出そうゲーム
- ・子ども市長の発表
- ・子ども放送局の説明

宿題の説明

- ・ミニ太くんとマユリちゃんのイラストを考える



市長選挙

市長選挙に立候補した子どもたちは、「立候補した動機」や「ミニたまゆりをどんな町にしたいか」など自分の意見を堂々と演説していました。選挙で選ばれた子ども市長は、皆やる気があり自分の意見をはっきり言える頼りがいのある子どもたちです。子ども会議終了後、会場に残ってもらい、今後の市長の仕事について説明を受けました。翌週の12月7日には、子ども市長としての仕事として、川崎市のコミュニティ放送局であるFM川崎の生放送番組に出演し、学生スタッフとともにミニたまゆりのPR活動に貢献してくれました。



当日の状況

第3回子ども会議の愛すブレイクゲームは「○×クイズ」をおこないました。最初は子どもたちも大人しく静かだったのですが、三問目あたりからだんだんと盛り上がりを見せてくれました。その後、ミニたまゆりで使用するユリーのデザイン投票やグループワークとしてお店の準備をしました。

お店の準備では、はじめに看板を作成してもらいました。各グループ工夫を凝らしたカラフルな看板が出来上がり、お手伝いした学生スタッフと一緒に記念撮影をしていました。その後自分のグループに割り当てられた仕事の在庫作成を行うのですが、シュシュなどとてもすばらしい商品が作られていました。作成した作品は子どもたちが持ちかえる事は出来ず、ミニたまゆり当日ユリーで販売される事になっています。

子ども会議の終了後、子ども市長には残ってもらい、ミニたまゆり当日に上映する、ルール説明のビデオに出演してもらいました。撮影では、レッドとブラックと共に、カメラの前で演技をしてもらいました。

第3回 子ども会議

日時：2013年12月21日（土）
場所：341・343教室
目的：ユリーデザインの投票
看板作成
在庫作成

時間割

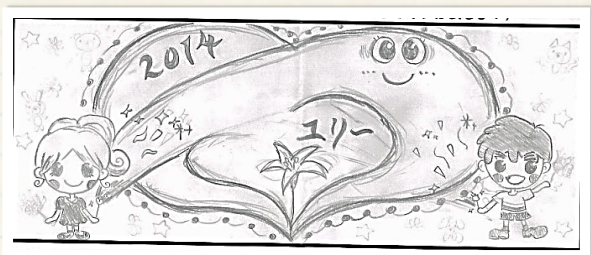
- ・アイスブレイクゲーム
- ・ユリーのデザイン投票
- ・グループワーク（お店の準備をする）
看板作成、エコバック、シュシュ
しおり、ミサンガ、魚釣り
小物入れ、紙ビーズ、折り紙

宿題の説明

- ・川崎市長への質問



宿題として集まったユリーのデザインの例



陸 依蓉 りく いよう (小4)



来田 梢 きた こずえ (小5)

当日の状況

第4回の子ども会議では本番さながらのリハーサルを行う、ミニミニたまゆりが開催されました。受付を済ませた子ども達には事前に10ユリー渡しており前半後半と別れて前半組は仕事→遊び後半組は逆の遊び→仕事と役割を担当しました。

今年のミニミニたまゆりではNPO法人ソシアキュアアンドサポートの協力で、ネイルサロン・メイク・ハンドマッサージを行う「ビューティーサロン」という新しい店舗を開く事になっており、NPO法人のスタッフが駆けつけ、子どもたちにメイクやマッサージを指導してくれました。

ミニミニ本番に向けて子ども達も熱心に作業を行っている姿が印象的でした。

第4回 子ども会議

日時：2014年1月25日（土）

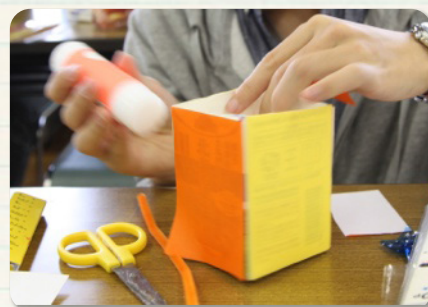
場所：341教室・343教室

目的：ミニ・ミニたまゆり



ミニ・ミニたまゆりで行ったリハーサル内容

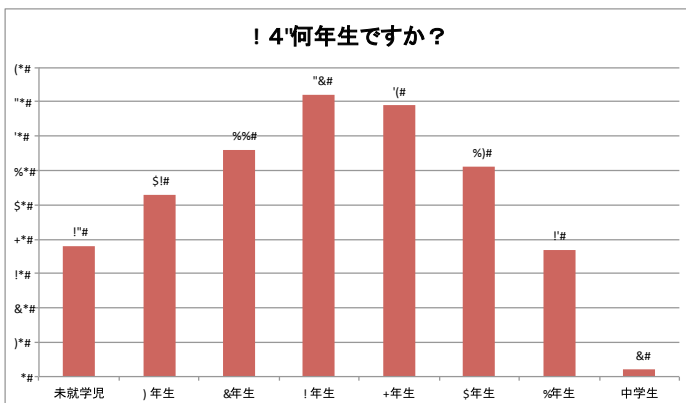
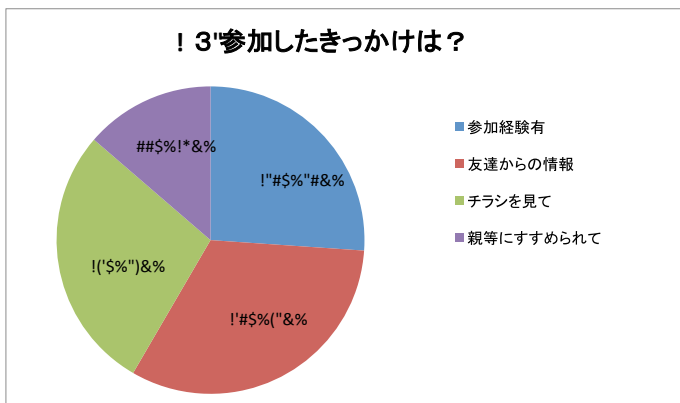
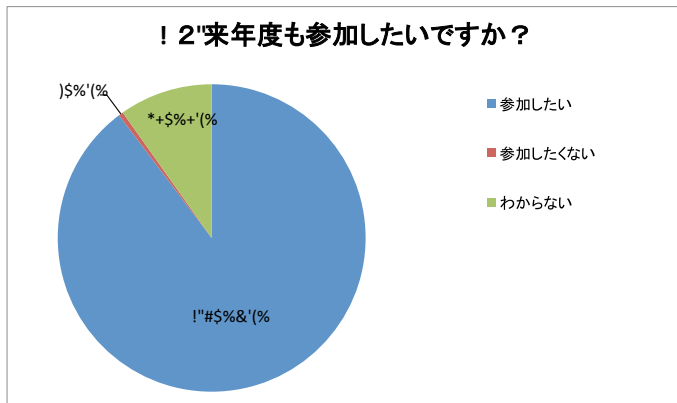
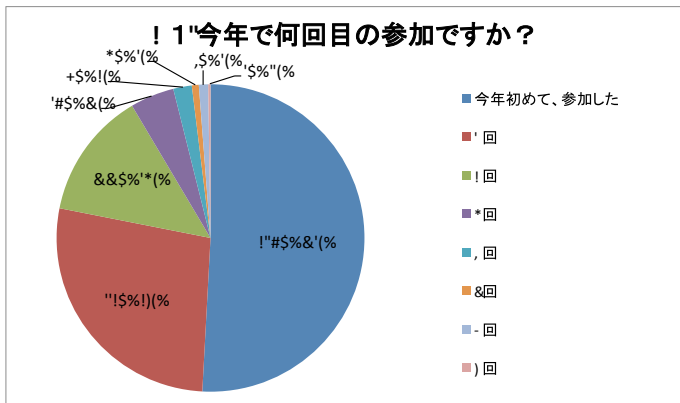
シュシュ	販売店	駄菓子
しおり	射的	から揚げ
折り紙	ビューティーサロン	チョコバナナ
モグラたたき	輪投げ	清掃局
ミサンガ	1円玉落とし	フルーツポンチ



アンケート集計結果 子ども

子ども向けアンケートの集計結果です
アンケートの回収方法

アンケート用紙に記入した子どもに駄菓子を配布
場所：市役所
回答数：422



楽しかった仕事

1位	ネイルサロン (30)
2位	綿菓子 (24)
3位	迷路 (20)
4位	射的 (19)
5位	警察 (15)
6位	市役所 (14)
	ブラバン (14)
	パン屋 (14)
10位	モグラたたき (13)
11位	税務署 (12)
	ヨーヨーつり (12)
	クレープ (12)

将来の夢

1位	ケーキ屋 (27)
2位	サッカー選手 (22)
3位	俳優・アイドル (19)
4位	保育士 (18)
5位	デザイナー (11)
6位	教師 (10)
7位	美容師・ネイリスト (10)
8位	看護師 (8)
9位	警察官 (8)
10位	ピアニスト (7)
	電車の運転手 (7)
	野球選手 (7)
	パイロット・CA (7)

各ジャンルで人気があった仕事

	1位	2位	3位		
食事	パン屋	うどん屋	フライドポテト	フランクフルト	
デザート	綿菓子	クレープ	フルーツポンチ	ポップコーン	
制作	ブラバン	しおり	シュシュ	折り紙	紙すき
遊び	ネイルサロン	迷路	射的		
公共	警察	市役所	税務署		

その他の意見

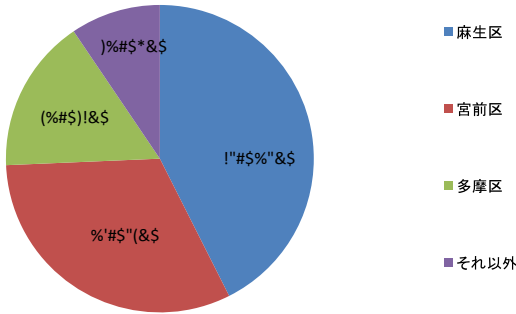
- ・すごく楽しかったです。
- ・来年も来たいのでこれからも続けてください。
- ・とっても楽しかった。また来たい!!
- ・ラーメン屋さんなど麺系のお店がほしいです。
- ・ミニたまゆりの会議に行って、いろんなことを教えてもらってうれしかったです。
- ・たくさんお店があって楽しかったです。
- ・いつも楽しいお店がいっぱいでうれしいです。
- ・おいしいものだらけで迷ってしまいました。
- ・また参加したいです。
- ・うどん屋さんがとても楽しかったです。またこれたら来たいです。
- ・何回来てても楽しいです。
- ・警察官のチラシ配りが楽しかった。
- ・他に仕事がほしいです。
- ・もっと遊びが増えてほしい。
- ・いろいろなことがわかる。
- ・とても楽しかったです。社会の仕組みなどがわかった。これからもミニたまゆりを続けてほしいと思います。
- ・今回、初めてで、昨日今日でいっぱい働いて、ユリーをかせいで、8ユリーもらってごはんを食べたり、遊んだりして楽しかったです。
- ・いっぱいお仕事があって良かった。
- ・大学生たちが優しかった。
- ・ブーメランをもらえてうれしかった。
- ・毎日やってほしい。
- ・これからもこのイベントを進んでやりたい。
- ・これからもこのイベントがあるなら行きたいと思います。楽しみにしています。
- ・ミニたまゆりは面白いからずっと続けてほしい。
- ・ミニたまゆりという気軽に参加できるイベントがあってとても良い!!中学生からも楽しめる仕組みがあったらもっとよくなると思う。
- ・ミニたまゆりサイコー!
- ・同じくらいの歳の子がたくさんいて楽しめました。もっとお店を増やして、もっといろんな人に参加してほしい。
- ・楽しかったです。こうゆうお店があるだなあと思いました。
- ・私ははじめてだったけど、すごく楽しかった。
- ・今日来て良かったです。いっぱい働けてうれしかったです。ここが好きになりました。わかりやすかったです。また来たいです。楽しかったです。
- ・いろいろたのしかった。ぜったいやめないでほしい。
- ・食べ物がおいしかった。
- ・来年もよろしくお願いします。
- ・たまゆりLOVE!
- ・ネイルサロンでかわいいネイルができたのが良かった。
- ・とても楽しいです。また機会があれば、ミニたまゆりに来たいです。
- ・このようなことを考えて下さりありがとうございました!
- ・とてもいいと思います。これからも続けてほしい!
- ・ミニたまゆりがあってとてもうれしかった。

アンケート集計結果 大人

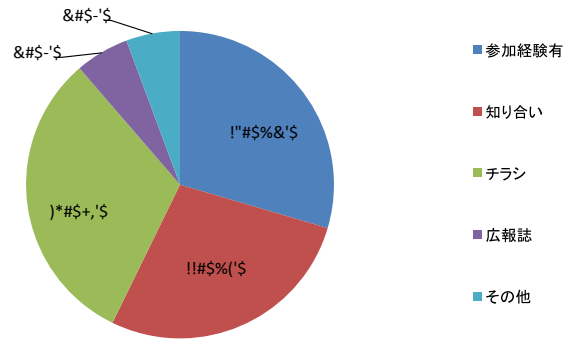
大人向けアンケートの集計結果です
アンケートの回収方法 食堂などでアンケート用紙を配布
回収場所：市役所

回答数：149

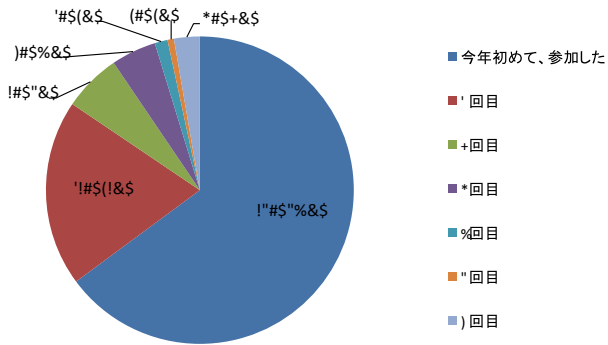
！1'お住まいはどちらですか？



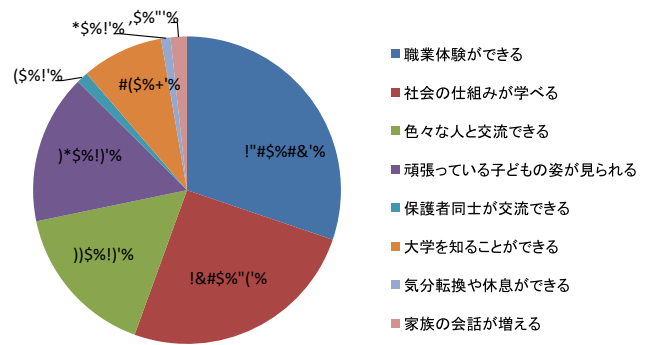
！2'参加したきっかけは？



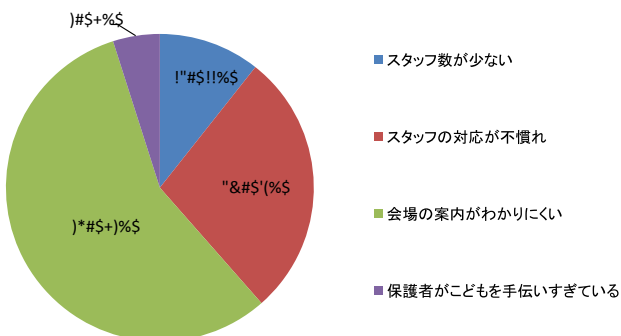
！3'今年で何回目の参加ですか？



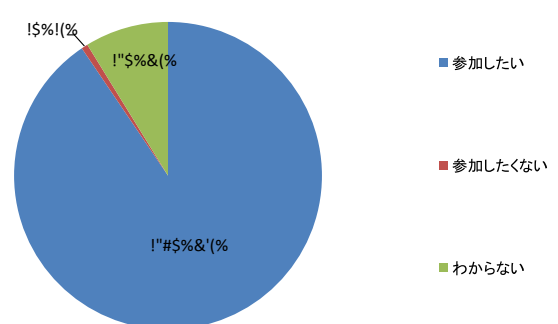
！4'良かった点



！5'改善点について



！6'来年度も参加したいですか？



その他の意見

・昨年も2日間めいっぱい楽しめたが、今回も楽しかったようである。特に航空教室を楽しみに参加したが、思った以上素晴らしく子どもも大人も大満足。自分たちが住んでいる街でパイロットの方や、CAの方のお話が聞け、子どもの様子を見ることができ、貴重な体験であった。ただ、ANA 整理券交換所において時間外は係りの方が不在であったので、案内表が必要であった。また、バザーも良い企画であった。学校関係者の方や学生の皆さん、スタッフの方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

・4歳と6歳の子であったので、仕事を理解するのが困難であった。でも、ボランティアの方の対応が丁寧でとても良かった。保護者がそばにいとチラチラと見てしまい、集中できないと思う。もう少し大きくなったら、自分で色々体験させてもらえるのではと期待している。

・給料を得て、税金を支払って残りを楽しむという意味で社会の仕組みを垣間見たと思う。キッズニアと違って当日中にユリーを使い切るというシステムはとても良い。

・初めて参加した。ビデオでの説明はとてもわかりやすかった。子どもたちは、職案から納税までの一連の流れを知ることによって次々と繰り返し仕事をしていく。稼いだユリーでお昼も食べていた。とても良い取り組みであった。大学生が子どもたちと関わりを持つことはとても良いことである。

・税金の仕組みなどがあって良い。清掃の仕事などもやらないと町が汚くなるということが勉強になった。

・いつもお小遣いをもらっても特にありがたがることもなく消費する我が子。姉妹によって選ぶ仕事が違うのも興味深かった（一人は税務署・役所、一人はものづくり）。年齢の差もあるが、仕事の向き不向きあると思う。その仕事を通じて、稼ぐ⇒税金を支払う⇒お金を使うという流れがわかるイベントだと思う。

・働くことによってお金を稼ぐことや税金がかかること、様々な仕事があることなど、貴重な経験ができたと思う。是非来年も参加したい。

・仕事をして、お給料をもらい、税金を支払って、その自分で稼いだお金で何かを得る体験は子どもたちにとって貴重で充実感のあることだと思う。とても満たされた顔で自分で買った食べ物を食べていたのが印象的だった。

・働く⇒給料をもらう⇒納税する⇒手元に残った給料で楽しむという仕組みを家に帰って父親や他の兄弟に説明していた。最後に「働くって大変だけど、（お給料で食べる）ご飯は美味しいよ」と言っていた。参加して良かった。

・何かをしてお金をもらうことは大変だということが少しわかるし、納税ということにも触れることができていると思う。何か作ったりして売ること、体を動かしたり声を出したりする仕事、色々な事が集まって世の中が回っているという事を学べると思う。また、家に帰ってから子どもの声に耳を傾け、社会の仕組みの疑問点等を話し合うことでさらに今回の体験が役に立っていくと思う。

・企画・運営から学生さんたちと子どもたちの力の賜とのこと。本当に素晴らしい。ここまでの準備と実行力は十分お互いの力を引き出し合っていると思う。どうぞ続けていって下さることを期待している。できることなら職案を色分けするなどして列をわかりやすくしたほうが良い。そのほうがよりスムーズに動くのでは？ご検討ください。他の店舗・組織は素晴らしい！

・とても良い体験になった。私は家庭の仕事に対してお金を渡すというのは抵抗があり、していないので家庭外でこのような体験ができたことを嬉しく思う。また、一人で参加してもスタッフの方や他の参加者の方たちとすぐに親しくなって親から離れていける雰囲気もとても良いと思う。ありがとうございました。

・とても役に立った。特に税金を支払う行為ははじめ受け入れにくかったが、「そのお金はみんなのために使われる」ということを説明してあげたら納得していた。

・初めてだったので、仕組みがわかるまで迷っていたようですが、親は手・口を出さずにいたところ、親切な学生さんたちにたずねて、道案内していただき、軌道にのった。仕事も途中でアドバイスももらったのか大声で呼び込みをしていた。学生さんとの交流もほほえましいものだった。

・納税が納得いかないようだったが、社会を知るのには良いことだと思う。半分は高い気がするが

・初めて参加した。子ども会議から参加したこともあり、とても楽しそうに生き生き仕事をしていく。自分で働いて得たユリーを自分で考えて使う。現金を使うのは抵抗があるが、ユリーなので安心して子どもに任せることができた。子離れのいい機会になると思う。

・航空教室など、大人が参加してもとてもためになるコーナーがあり、楽しく過ごせることができた。スタッフの方、ボランティアの方、大学さん、素晴らしい企画をありがとうございました。益々のご発展をご祈念申し上げます。

・子どもが仕事をしていくところのお兄さん・お姉さんたちの指導がとても良かった。30分頑張って働いても少しの食べ物や遊びですぐ使ってしまうのは厳しい現実のように感じました。

・毎年楽しみにしている。年々良くなっていて、来年も楽しみ。職安の表を教室ごとに色分けすると良い。（4人同じ仕事でなく、同じ教室の仕事にしたほうが職安の窓口がスムーズになると思う）ミニたまゆりの市民登録カードや声優の台本など読みやすいフォントでフリガナをふってほしい。5歳以下がNGなら全員を統一してNGにしてほしい（もしくは全員OK）。使いきれなかったユリーを募金として回収してほしい。

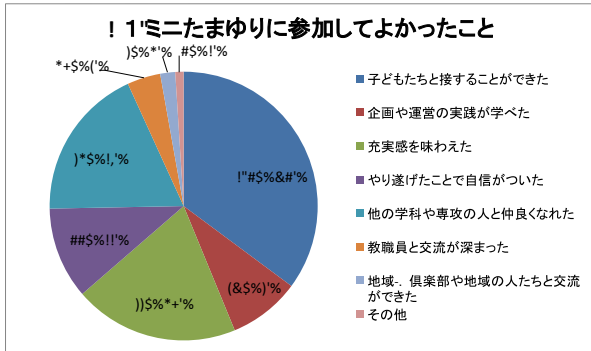
・学生の皆さんがとても親切で笑顔が素敵。授業を受けながら「ミニたまゆり」の企画・準備をし、これだけのイベントを行い、片付けとっても大変だと思う。お陰で子どもたちはとても良い2日間を過ごせた。自分も子どもになって参加できたら、どんなに楽しいだろうと思うほど、魅力的なミニたまゆりを来年も楽しみにしている。様々な問題があると思うが、気になったので... ひとつは子ども会議でもっと子どもたちに色々やらせてもいいのではと思った。参加した時がたまたまそうだったのかもしれないが、遊ぶだけであった。町づくりに関わった実感がないように感じた。もう一つは、下に兄弟がいる我が家のわがままでもあるが、小さな子（仕事ができない子）が遊べる場があると助かる。例えば、保育園を作って、保育士の仕事を作ってもらえると嬉しい。それから対象年齢をなのですが、出来ない仕事があって良いので4歳（できれば3歳も）にさせていただくと最高。最後にやりたい仕事が多すぎて出来ない（カードがない）のが少し気になった。エコバサーはとても良かったと思う。ありがとうございました！

アンケート集計結果 学生

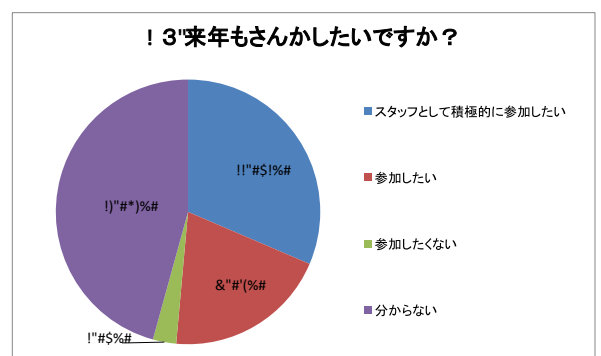
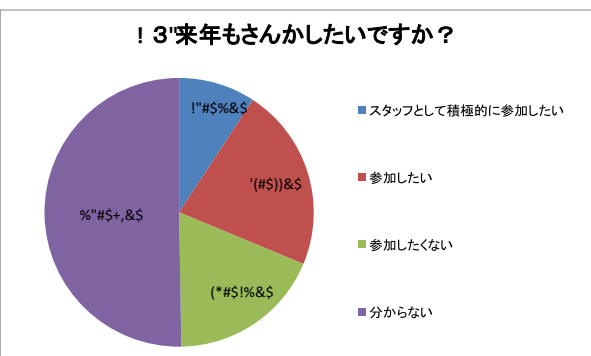
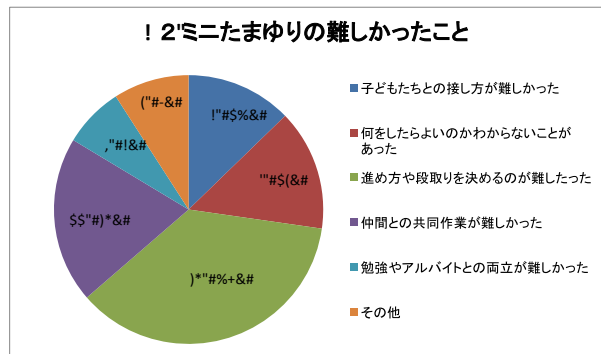
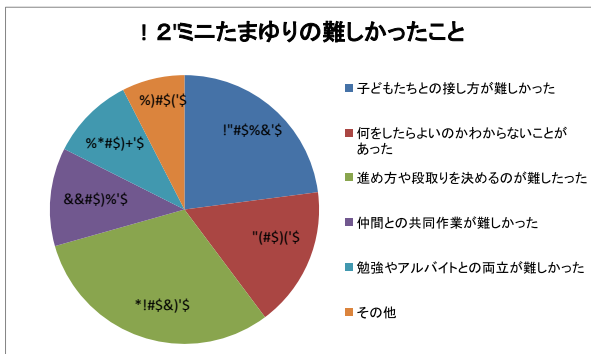
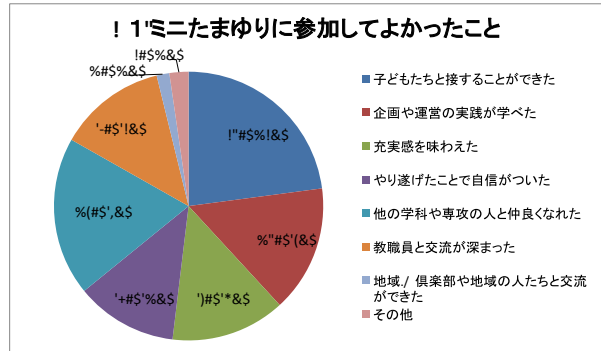
ミニたまゆりに参加したボランティア学生のアンケート結果です
アンケートの回収方法
イベント終了時の出席確認としてアンケートを提出

回答数：197

全学生対象 (197)



コアスタッフ対象 (37)



ミニたまゆりで工夫した事・気をつけた事

模擬裁判で感情を入れ、また、レッドとなり、イベントに参加又は校内を歩くなどをした・アンケートの配布と気配り・ツイッターで落し物情報を流し、画像などもつけ、わかりやすくした・子どもとのコミュニケーション・ご飯そのままの販売でなく、先生のアドバイスでおにぎりに変更した・経験した子が他の子に教えたりするのも良かった・子どもが道の真ん中で溜まってしまっている時の対応など・子どもたちが怪我をしないように、危険な仕事は行うようにした子どもがたくさん来た時は役割分担をした・1日目の経験を生かし、効率的にできた・できるだけ、仕事を子どもに任せ、できないところをサポートするようにした・子どもが勝手に遊んだり、お金を持ち出したりしないようにした・時間調整をし、全ての子どもが様々な役割ができるようにした呼び込みはみんなで協力して頑張った・食べやすいようにおにぎりにして販売した・詳細情報をツイッターに書き込んだ・役割分担・各担当の子どもたちの対応・丁寧な指導・子供たちの仕事がなくなるように工夫した・改善点を見つけ、良くなるようにした・子どもが多く来て大変だったが、他の仕事もできて良かった・子どもたちが怪我をしないように注意をしながら、教えた・子

どもたちが均等に仕事ができるよう工夫した・子どもたちの仕事の取り決めと職案へのカード返却方法・クレープが最後まで完売できず、苦勞したが、完売できるよう頑張った・小さい子の面倒を見ていた・ものの貸し借り等の声をたくさんかけて子どもが待たないようにした・子どもたちがパズルを楽しく作れるように話しかけたり、道具を持ってきたりした・多くの人が税務署で様々な仕事ができるように頑張った・募集中の仕事がすぐにわかるように模造紙を工夫して、きれいに並べるように列を整えた・整列・整備の工夫・ダンボールアートが倒れないようにすること・お店の回転をよくし、ミスを減らすように努力した衛生面では、マスク・エプロン・手袋の装着は徹底した・反省をいかし、先読みして行動した・準備、ピンゴ、宝くじ・子どもたちが楽しく仕事ができるように促した・子どもたちと話し合っただけで行動した・いろんなところからものを借りて不足品を補ったり臨機応変に対応・在庫の確認不足でトースター1台しか使っていなかったの、2台使用するようにした・子どもの主体性を大事にし、少しだけサポートをした・書き方がわからない子に対しての教え方・均等な仕事配分・お客様の邪魔にならないよう会場整備を行なったまた、子供たちの役割を取らないように頑張った・子どもがたくさん来た時の役割分担を工夫した小さいお子さんが来た時は、軽作業をさせるようにした・仕事をスムーズにこなせるように常に気配りができたさわりやすく作り方を説明することができた・役割分担・列の整理・丁寧に説明した・臨機応変な対応・みんな平等に材料が行き渡るように・タイムセールをしたら、子どもがたくさんきた・携帯での連絡を密に・ヨーヨーがとりやすいようにわか部分の大きさを大きくしたり、とった後もコミュニケーションをとるようにした・ダメなものだめと言えた・言葉遣いに気をつけたわかりやすいよう自分も作業をしながら教えた・子ども目線になってフォローした積極的な子どもに話しかけるなどコミュニケーションを取るよう努力した・子どもたちに最も得意なものを折ってもらい、高い完成度を求めた・食堂だったので働きに来た子どもたちにエプロンやバンダナなどの支度の手伝いをした・できるだけ子ども目線で話した・年齢相応の内容にして対応したこと一度にたくさんの子に目を向けて、出来ない子にはすぐに対応できるようにした・子どもたちにわかりやすいようにマニュアルを説明した困っていたら積極的にアドバイスするように頑張った・読めない子の横で一緒に読んだりした・子どもたちが主体的に仕事をしてもらえるように工夫した・作業をやっている子どもを少しでも待たせないように色々工夫した・ハンマーを振り回したりしてしまうのを注意したり、危なくならないようにした・指導のし方を変えたり、人が来ないときは子どもたちと会話を楽しんだだめなところだめと怒った・子どもとのコミュニケーション、出来るだけできることは任せ、かつフォローできるように気をつけた・子供たちの話を聞きながら楽しく取り組んだ・積極的にコミュニケーションをとった・市民登録がスムーズに流れるよう物品を準備した不足しているもの、準備不足がないよう周りに気を配った休憩時間にも他の場所を手伝った・告知して周り、仕事を希望する人に遊んでもらった・掃除の場所を的確に指示した・人数に応じて役割分担を行なった・子どもたちに接することを工夫・机の並び替え、表の書き換え・バザーの列をそろえる、分担して会計を行なった・みんなが綿菓子ができるようにローテーションした・列の誘導・声かけ・解凍するのを頑張った・声かけ・人の誘導を工夫・教えるのを頑張った・準備を前に始め、作業が滞らないようにした・子どもに仕事の楽しさを教えること・時間を設定し、講師の方の休憩をしてもらった・時間を意識して正確に行動した・入ってきやすいように手話の練習をした雰囲気をよくした・袋が開けやすいように切込をいれたストックをつくった・人数調整、タイムテーブルを作った・皿がなくなったら別のもので対応した・職案のならばの変更、呼びかけ・他の学生と協力して頑張った・子どもに興味を持ってもらうために実演した・見回りして各ブースのトラブル対応、危険な場所に立ち入り禁止テープを貼った・教え方を工夫した・みんなが楽しめるように素早く行動した・整列の仕事を作った働く人が増えたとき、仕事がなくならないようにした・教えすぎないこと、理由を付けて説明するようにした・消極的な子が輪に入れるように声かけをした一人の子にいろんな役割ができるようにした・子どもが、分担したり、宣伝したり、自分たちでよく考えてやっていたので良かった・役割分担・保護者からのお礼が嬉しかった・反省を踏まえ内容の変更、人数調整・子どもにわかりやすく伝えることを心がけた・模擬裁判ではハキハキ話すように心がけた市民登録・シュシは交流を大切にしたい・模擬裁判は感情豊かにメリハリをつけた、声優は子供と仲良くなるために努力した・子どもにしてもらうように促した・子どもの要望にできるだけ答えるようにしたちゃんと子供の話を聞いて、仕事がない子がいないようにした人の足りないところに行って、手伝うようにした・説明を工夫した・反省をいかして、清掃局の場所を宣伝した・子どもにどう接するか考え、子ども目線で話すようにした・子どもと世間話をするなど、コミュニケーションを心がけた・子ども目線で話したり、子どもが困っていたら声かけを行なった・子どもがみんな綿菓子ができるように順番を工夫した・販売の基本を子どもたちに教えた子供の仕事を確認した・豚汁は後半よく売れたので、子どもが大人ユリーを使っているか、ユリーのもらい忘れがないかよく見た・作業がスムーズに流れるようにした子ども目線で話したり、教えたりした・改善、作るスペースを広くした、役割分担・反省を生かし、効率的にできるように工夫子どもたちに積極的に話しかけたり、平等に仕事ができるようにした・時間帯を区切って時間調整をした・学生との連携・子どもたちが楽しめるようにした全体把握、人数配置も工夫・みんなができるよう回数を決める破れやすいので巻き方を工夫・お菓子の配り方・模擬裁判は証人としてしっかり発言できたボウリングは子どもたちの補助として、サポートすることができた・時間を決めるなどして仕事を調整した・スムーズに提供できるように頑張った子どもに楽しんでもらえるように努力した・お菓子を見えやすく、わかりやすくした・担当が自分一人だったので頑張った・先にあたためておいたので、混んでも大丈夫だった・全ての子どもがフルーツポンチをよそう仕事ができるようにした・衛生面に気をつけたユリーのチェックも行なった・仕事内容の説明を工夫実演もして説明した・子どもたちのペースで工作をすすめるようにした人見知りの子供が来たときは、対応を工夫した・子どもたちが自分で考えられるようにする・うどんを作りおき、袋に切れ目などで時間短縮子供が多くの仕事ができるように声かけをし、仕事を交代するようにした・着ぐるみに入って、子どもたちと仲良く出来た工作の簡単なやり方など教えたりした

福祉マインド実践講座とは

田園調布学園大学 人間福祉学部では、1年生の「福祉マインド実践講座」という授業があり、社会福祉を学ぶ学生に対して、実践的な「福祉マインド」を醸成するための導入教育として位置づけられています。また、様々な形態による社会貢献活動への参加を通じて、「地域に深く根ざした大学」に通う学生としての自覚と責任感を持ち、さらに「他者との連携」や「我欲・利己を捨てて奉仕する心」という福祉を学ぶ者としての資質を早期に身につけることがねらいに置かれています。具体的には「ミニたまゆり」「赤い羽根募金」「あさお福祉まつり」「地域の学校への教育ボランティア」等の地域の様々な施設や活動に出かけ、実習を行います。授業のなかで「ミニたまゆり」を紹介し、中心的な役割を果たすスタッフを募集しました。そこで集まった意欲の高い学生たちを中心として、事前の「子ども会議」を開催したり、本番に向けた準備をしてきました。

ミニたまは、当日になって準備不足に気づいてあたふたしたり、臨機応変に対応しなければならないことも多く、毎年大変です。しかし、完成された仕事をこなすのではなく、「失敗」を繰り返すなかで様々なことに「気づき」、教員に言われたからではなく、自ら進んでミニたま（子どもたち）のために課題を解決していくプロセスを通して、普通の授業では得られない「ひとのために何かをすすんですること」の意味を学生たちは学びます。最初は言われたことしかやらなかった学生が、やがて「来年度はこうしよう」と変化していく姿を見るのはとても面白いものです。



福祉マインド実践講座のスケジュール

- 4月21日 第1回 オリエンテーション（授業の仕組みについて）
- 4月28日 第2回 ボランティアの心構え、大学の地域貢献について
- 5月19日 第3回 教員・学生などのボランティア体験記、プチ福祉マインド演習
- 5月26日 第4回 ボランティア活動に向けて - 障害を理解する -
- 6月30日 第5回 学生アンケート、ミニたまゆりについて（1）
- 7月14日 第6回 福祉マインド養成講義（1） ボランティア活動者の講演
- 7月21日 第7回 赤い羽根共同募金について（1）・その他
- 7月28日 第8回 ミニたまゆり（2）、夏期ボランティアについて、後期授業について
- 9月29日 第9回 赤い羽根共同募金について（2）、その他
- 10月27日 第10回 学生向け講座（たばこについて）、赤い羽根共同募金活動報告会
- 12月8日 第11回 福祉マインド養成講義（2） 福祉活動者の講演
- 1月5日 第12回 ミニたまゆりについて（3）
- 1月26日 第13回 ミニたまゆりについて（4）、ミニミニたまゆりの見学

地域交流センターとは



地域交流センター（以下「センター」）は、ボランティアの紹介・相談や外部団体との連携などを行うセクションとして2009年4月に開設いたしました。

本学では、建学の精神「捨我精進」に基づき、まず人としての優しさや思いやりの心をはぐくみ、考える力を伸ばし、地域社会、国際社会に積極的に貢献していくことを基本理念としています。センターは上記の理念に基づき、学生スタッフや福祉系サークル等に協力を得ながら、運営を行っています。



ミニたまゆりにおけるセンターの役割

センターは、開室時からミニたまゆりの事務局となり、運営全般を実行委員と協力しながら行っています。特に、センターが中心に行っているのが、ボランティアのコーディネートと物品管理です。ミニたまゆりでは、多くの学生や地域の方々がボランティアとして参加しています。4年前から「福祉マインド実践講座」が開講され、1年生全員がボランティアとして参加しているので、250名ほどのボランティアが動いていることになり、その調整は必要不可欠です。また、ミニたまゆりは3,300名以上の方々にご来場いただいているので、多くの物品が必要であり、その管理と調整も必要不可欠です。センター開設以前は、ミニたまゆりの担当になった教員が全ての実務と管理を行っていましたが、センターが管理を担うことで、業務分担ができ、スムーズな運営を行えるようになりました。

第9回子どもがっくる町
ミニまつり2014



〒215-8542 川崎市麻生区東百合丘3-4-1

TEL 044-966-2780

E-MAIL : c-center@dcu.ac.jp

<http://minitama.jp/>